

(様式6)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成20年3月12日

【評価実施概要】

事業所番号	2873400614		
法人名	有限会社アキタケメディカル		
事業所名	アキタケメディカル「さくら」グループホーム		
所在地	兵庫県神崎郡神河町吉富1597-1 (電話)0790-32-32-3690		
評価機関名	株式会社H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6番8-102号		
訪問調査日	平成20年2月7日	評価確定日	平成20年4月2日

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

病院が母体であり、介護センターが併設されたホームである。ホーム内は職員が利用者者と一体となって生活に溶け込んでおり、落ち着いた雰囲気がある。グループホームが少ない地域であるが、昨年、当ホームが中心となり地域の事業所との連絡会を持つようになるなど、地域での役割は大きい。併設施設のメリットを活かし、研修のみならず、日常的なケアに関しても交流により、サービスの質向上を図っている。ホームの1日の流れは大まかに決めているが、一人ひとりの生活リズムを把握し、その時々利用者の心身状態に沿った個性のある支援を心掛け、利用者本位の過し方ができるような配慮がされている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4) 評価後、結果を基に、職員全体で、今後の取り組みについて話し合っている。地域との関わりは徐々に増えており、運営推進会議にも参加してもらっている。ホームが中心となって地域の事業所との連絡会を持つようになり、定期開催できている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4) 第三者評価を受けるに当たって評価を受ける意義を職員に説明している。一部の職員には自己評価をしてもらい、結果を職員で話し合っている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6) 運営推進会議は入居者、家族、町福祉課職員、地域住民(区長など)、施設職員などが参加し開催している。ホームの活動報告や、行事案内、ホームの退去基準等について意見交換を行っており、ホームの取り組みを理解してもらう機会となっている。出された意見はサービスの改善に活かしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8) 利用者の日常の様子や、受診結果・受診後の様子なども電話と文書にて家族に報告している。面会時には職員から声をかけ、相談や意見を言いやすい雰囲気作りを心掛けている。家族会を定期開催したり、運営推進会議の開催前に参加・不参加の確認にあわせ、意見を求めるアンケートを配布するなど、家族が意見を言いやすい場面を作るよう工夫されている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3) 地域の行事や小学校の運動会・交流会などの学校行事には参加している。日常的な交流は少ないが、挨拶程度は行なっている。

【情報提供票より】(平成20年1月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	37530		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	8人	常勤6人, 非常勤2人, 常勤換算6.85人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	31,000円	その他の経費(月額)	19,000円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / (無)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000円			

(4) 利用者の概要(平成20年1月1日現在)

利用者人数	8名	男性	名	女性	8名
要介護1	1	要介護2	2		
要介護3	2	要介護4	2		
要介護5	1	要支援2			
年齢	平均 85.5歳	最低	76歳	最高	90歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	神崎総合病院、桐月歯科医院
---------	---------------

2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを 期待したい項 目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	母体法人の基本方針を基にホーム独自の理念を作り上げている。パンフレットはグループホーム独自のものを作成している。		地域密着型サービスでのホームの役割を職員間で話し合い、地域や利用者のニーズ、現状にあった理念を職員が参加して、検討していく事が望まれる。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	施設内にも掲示し、ケアの方向性に迷ったときなど話し合ったり、立ち戻って確認するよう心掛けている。会議がある度に全員で理念を確認するよう取り組んでいる。管理者も理念を噛み砕いて説明するなど個々の理解度にあわせて理解できるよう努めている。		理念はケアの根本でもあり、管理者は職員間での統一の必要性を認識し、機会がある毎に繰り返し理念の実践に向けて話し合う機会を持たれることを期待する。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事や小学校の運動会や交流会などの学校行事には参加している。日常的な交流は少ないが、挨拶程度は行なっている。		家族や地域住民の方との交流の機会を持ち、地域の掃除・見守り活動等を通して、地域活動の機会を増やされることを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	第三者評価を受けるに当たって評価を受ける意義を説明している。一部の職員には自己評価項目を個々に考えてもらい、結果を職員で話し合った。評価後には結果を基に、職員全体で、今後の取り組みについて話し合っている。自分の普段の介護を見直す機会にもなっている。		自己評価は、自分たちの日頃のケアを見直す機会にもなるので、出来るだけ多くの項目を職員全員で実施することが望まれる。また、改善事項に関しては、事業所の状況を踏まえ、計画的に取り組む事を期待する。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は入居者、家族、町福祉課職員、地域住民（区長など）、施設職員などが参加しておおむね2ヶ月に1回開催している。内容はホームの活動報告や、行事案内、ホームの退去基準等について意見交換を行っており、サービスの改善に活かしている。</p>		<p>第三者評価の結果報告を行い、改善策について地域からの意見をもらうなど、モニター役として利用し、質の改善に活かしていけるよう期待する。</p>
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>町職員が運営推進会議に参加しており、意見交換をしたり、ホームの取り組みを理解してもらう機会となっている。運営推進会議の議事録も提出している。不明な点を電話で相談するなど、連携をとっている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>利用者の日常の様子は、担当職員から書面で報告している。受診結果や受診後の様子なども電話と文書にて家族に報告している。面会時には職員から声をかけ、ホームでの様子などを報告している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時には職員から声をかけるようにしており、相談や意見を言いやすい雰囲気作りを心掛けている。家族会を定期開催し、運営推進会議の開催前に参加・不参加の確認にあわせ、意見を求めるアンケートを配布するなど家族が意見を言いやすい場面を作るよう工夫されている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>昨年から職員の異動は殆んどない。なじみの関係を重視し職員の異動は最小限になるよう配慮している。新しい職員が入った場合は家族会や行事、面会時を利用し紹介し不安の軽減に努めている。</p>		
5.人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員には個々の経験や段階に応じた研修への参加を積極的に支援している。内部研修は併設施設と一緒に母体病院の看護師や介護センターの看護師が中心となって年間計画を立てて、2ヶ月に1回行っている。参加できない職員には資料を配布している。</p>		<p>介護センターとの研修に加えグループホーム独自のものを組み込み年間の研修計画を立てられる事を期待する。職員に学びたい事などをアンケートで取るなど職員時自主的に学ぶ姿勢が出やすいよう工夫される事も期待する。</p>
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>ホームが中心となって地域の事業所との連絡会を持つようになった。5月から3ヶ月に1回のペースで開催しホームの見学も兼ねて、管理者・職員が交流するよう機会となっている。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>施設の見学・イベント行事等への参加、必要な方には短期の体験入所が出来る体制があり、馴染みの関係が持て入所が出来るよう配慮している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員と利用者が同じ目線に立つことを意識しており、共に家事をこなす中で支え合う場面も見られる。職員は利用者と過ごす時間の中で、介護する側として一方的にならず、利用者から学ぶ姿勢を忘れないよう努力している。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居の面談時に基本情報として、利用者の生活歴や背景を把握している。利用者や家族の希望や意向も聞くようにしている。日常のかかわりの中で利用者の些細な変化や表情・行動などから、利用者の思いの把握に努めている。</p>		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>計画作成担当者は利用者や家族の意向や要望を聞き、計画に反映するよう心掛けている。計画変更時には説明も行なっている。職員間では計画を充分把握できていない。</p>		<p>職員間で計画が周知できるよう見やすい位置におくなどの工夫し、計画に沿った記録が出来るよう改善が期待される。</p>

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画の見直しは3～6ヶ月に1回を基本とし、必要時に適宜見直しを行なっている。毎月の職員会議時に情報交換、事例検討を行い、計画の見直しを行なっている。		利用者の状態変化あるなしにかかわらず、1ヶ月に1回程度介護計画が現在行なっているケアとずれがないか、利用者や家族のニーズの変化がないかなど新鮮な目で確認し、見直す必要がある。また、何故変更したのか分析や評価した内容も記載し、職員間で理解にずれが生じないような工夫も望まれる。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診同行や利用者の希望にあわせ個別の外出支援、入院時の面会や洗濯、早期退院に向けた支援など利用者や家族の希望にあわせ、安心して暮らせるよう柔軟な対応を心掛けている。		
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望により馴染みのかかりつけ医へ受診できる体制がある。職員が受診介助する事が多いが、家族が受診同行される場合には、様子をメモ書きや口頭で伝え、返事をもらうなど情報の共有が出来る様になっている。母体病院からの往診の体制が整えられており、時間を問わず連絡が取れ、緊急時の迅速な対応に努めている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重症化した際や終末期の指針は定めていないが、終末期のあり方については利用者や家族の希望を聞くと共に、ホームの体制を説明している。看取りを行っていない為、利用者や家族の希望により次の療養場所を紹介している。		利用者一人ひとりの方針を明確にして、書面に残しておく事が望まれる。また、早期から話し合う機会を作り利用者や家族にホームの姿勢を明確しておくことが望まれる。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>言葉がけや一人ひとりの尊厳を大切にしたケアをするよう心掛けている。職員とは個人情報やプライバシー確保の契約書を交わし、確認している。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>大まかにホームの流れは決めているが、利用者の心身状態や、一人ひとりの生活リズムを把握し、その時の気持ちに沿った個別性のある支援を心掛けている。日々の暮らしの中の役割や行事への参加は強制せず、利用者の希望やペースにあわせて参加できるよう柔軟に対応している。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>					
22	54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>日頃は併設の施設との共通の食事であるが、週2回はホームで作っている。日頃出ない物や利用者の好みを聞き、献立を立てている。利用者の好みに合わせ食材に変化をもたせるような対応もしている。利用者の能力にあわせて買物や配膳・下膳・食器洗いなど職員と一緒にやって行っている。食事時間は職員と一緒に会話を楽しみながら楽しく食べられるよう配慮されている。</p>		
23	57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>入浴時間は可能な範囲で利用者の希望に合わせている。中のよい利用者同士の入浴や入浴の順番などにも配慮し、ゆっくりとくつろいで入浴できる工夫もされている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備や配膳、買い物や文化祭の作品作りなど、利用者の能力に応じて無理のない範囲で発揮できる場面を提供している。利用者のできる可能性を見出していけるよう、職員間で情報を共有する仕組みがある。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望を聞きながら、近隣への散歩や買い物にも行くなど、ホームに閉じこもらない生活になるよう配慮している。併設のデイサービスにも自由に参加しており、利用者本位での支援となるよう配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないことをホームの方針としている。玄関など施錠しないことが基本であり、夕方以降、職員人数が少なく安全を確保するために施錠することはあるが、利用者や家族に同意を得ている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を手につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は利用者や職員も参加して年に2回行っている。地域の協力の必要性は理解しているが、働きかけが充分に行なえていない。		避難訓練は夜間に起こることを想定し、誘導方法や体制作りをされる事を期待する。また、地域の人や、地元の消防団などに、運営推進会議などを通して協力を依頼するなど、協力体制整備されることを期待する。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事量や水分量は大まかに把握し個人記録に記載している。必要に応じて細かく切るなど食べやすいように工夫し安全な食事提供ができるようにしている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有空間の一部に畳みのスペースがあり、冬には掘りごたつにするなど憩いの場所となっている。さりげなく飾ってある花や写真などで季節感を出すよう工夫している。台所で調理している様子やにおいを感じられる作りになっており、職員が利用者と一緒に生活に溶け込んだ雰囲気を感じられる。併設のデイサービスや特養と一緒に犬を飼い始めるなど、五感刺激への配慮もしている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家族と相談しながら自宅で使用していた家具や思い出の物や写真など馴染みのものを自由に持ち込み、利用者の個性を活かし、安心して過ごせる空間ができている。</p>		

は、重点項目。